
世界と狐っ子

白い狐が好きです

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界と狐っ子

【Nコード】

N4994M

【作者名】

白い狐が好きです

【あらすじ】

神様達の暇つぶしにつきあつて転生したのはいいんだけど……女になつてるし、狐っ子だし、さらに約束で原作開始まで生きないとにされてしまうつてのにエヴァが生まれるより約3000年も前ってどういうことですか!?

1、原作開始約3000年前ですか

右も左も、さらに上さえ木だらけで空さえほとんど見えない森の中にぽつんといった人影から

「ここは、どこですかー！ー!?」

静かな森の中に、虚しい叫びだけが響きわたった……

・
・
・

やあ！ 俺はさっきまで亡者の列に並んでいたはずなんだが気がついたら変なじじいがいる真っ白な部屋にいたぜw

「手早く済ませたいのでじゃ、さっさと戻ってきてもらえんかの？」

「っと、悪いなじいさん余りにも突然すぎてついていけなかったぜ」

「それでじゃ、わし等の暇つぶしにつきあってもらってかまわんぬかの？」

「転生だっけ？」

「そうじゃ、ちなみにお主に行ってもらう世界は魔法先生ネギま！での、既に9人ほど送っているのお主で最後なのじゃ」

「ネギまか……って9人多!!」

「仕方ないのじゃ、わしら神が面白くしてもらおうと力を与えても所詮は元一般人じゃから行った瞬間死んでしまったり、力に飲み込まれて自滅してしまう者が後を絶たなくての……それでじゃ、世界が受け入れられる限界の人数を最初から送り込んでしまえば生き残れる可能性が高いだろうってわけじゃ」

「ふん、まあいいや」

「それでどうじゃ、わしらの暇つぶしにつきあって転生してもらってかまわぬかの？」

「ああいいぜ、ただいくつか質問してもいいか？」

「かまわぬ」

「くれる力の数は？」

「五つじゃ。但し、能力によっては2つ分以上を要求する場合もあるの」

「転生後の容姿とか、転生先の指定とかはくれる力の中にはいるのか？」

「はいらぬな、それらは力と関係ないからの」

「力の交渉とかは可能か？」

「交渉じゃと？」

「ああ、何かを諦めるとか削るとかで2つ以上本来欲しいところを一つにできるかってことだ」

「ふむ、それならまあ…可能じゃな」

「先に行った連中がどこに行ったか教えてもらうのは可能か？」

「最後になってしまった餞別がわりにかまわぬ、細かくは無理じゃが……原作開始約600年前に4人、大戦時に3人、原作に合わせ2人じゃな」

「600年前が一番多いって……」

「ロリンが多すぎたのじゃ気にするでない……まだ、他にあるかの？」

「いや、これで十分かな？」

「それでは、お主は五つの力は何を願うのじゃ？」

「俺は……」

・
・
・

くくここから冒頭に戻りますくく

「なんか声が高いし、周りは木しかないし、小さいけど胸が盛り上

がつてるし、わたしの大事な物が無くなってるし、頭の上に耳があるし、腰あたりから尻尾見えるし、言葉もおかしいし……っあのおじいさんなにをしてくれたのですかーーーーー!!」

もう一度、心の底から叫ぶが虚しく森に響くだけ……

「……はあはあ、まあいいですとりあえずポケットの中に入っていた手紙を読んでもみます」

いつの間にポケットの中を調べていたのかとか気にしないでください。

「ええつと何々……『長く書くのも面倒じゃから簡潔に、今の姿はお主がわしに容姿をまかせていいと言ったからじゃ、時代はまあエヴァが生まれるより3000年くらい前じゃな、場所はわしにも分からんw、頼まれた道具は近くの箱の中じゃ、原作開始前に死んだら約束通りお主はわしのペットじゃからの（雄はいやじゃから雌で狐っ子萌えが最近のわしの流行じゃw）、3000以上前なのはお主が頼んだ並行世界への移動権利を得るためじゃ、後はps：かなりわしの好みを入れさせて貰った礼におまけもつけといてやったので使うといいのじゃ』……後はの続きが無いのはきつとめんどくさくなっただんですね、……今のこの状態はわたし自身のせいでしたか」

気づいたらわたしは力が抜け膝を着きorzの姿をとっていました。

……続く？

2、狐っ子には巫 服がデフォルトですよ。(前書き)

主人公がしたつたらずになつたので少し読みにくいと思いますが、これはこれでありじゃないかなと思っています。

2、狐っ子には巫 服がデフォルトですよ？

「いつまでもこうかいしてもしかたないです、てがみにかいてあったはこをあけてみます」

言葉が前回と違っておかしいですが、落ち着いてきたら急に舌ったらずになってしまいました。

まあ、ここにはわたししかいませんので気にせずに近くにあった箱を開けたいとおもいます。

「なにがでるかな　なにがでるかな」

宝箱を開ける感じがしてたのしいです

カパッ

『パッパカパーン！』

ビクッ！！

『少女は宝箱を開けた、

手の平サイズのガラス球、

小さな指輪、

携帯食料、

赤白の服、

古ぼけた手紙、

を手に入れた！！」

・
・
・

……本物の宝箱でしたか、おじいさんの悪戯だと思いますが、気にしないようにしましょう。

「つと、とりあえずひとつずつかくにんしてみましよう。……………」

……………どうやらてがみはいっているもののとりあつかいせつめいしよみたいですな。」

現状確認と頼んだ物の使い方が分からなかったら意味がないですから読んでみましょう。

『取り扱い説明書（by 神様の部下）「おじいさんじゃなくてそのぶかさんからでしたか」この度は神様達の暇潰しに付き合ってくださいありがとうございます、本当でしたらこの説明書も神様が書くはずだったのですが神様ってば……………「ぶかさんのぐちがえいえんとつづくのでかつとです」……………新生活応援セットの説明「ここからですね」新たな生活を始めていただく転生者の皆様を少しでもお手伝いさせていただくために少しばかりですがお役立てください（転生者ごとに入っているものが多少違いますのでこの先の説明はあなた専用だと思ってください）。

手の平サイズのガラス球

（あなたが望まれました2つの道具のうちの一つになります。）

名前はグランドアースといいますが、神様印の特製品でして、ステルス機能とどんな衝撃でも壊れないように出来ています、さらに、現実世界との時間の流れが現実の1時間中では1日だけでなくその逆、現実の1日を1時間にできたりします、もちろん現実との同期も可能です。中の広さですが、某真祖の吸血鬼が使っていた別荘とは別物だとお考えください、具体的にはこれは別荘ではなく一つの世界だと思っていただければ分かりやすいと思います。詳しい説明は、中に入れてますのでそちらでご確認ください。中に入りたい時は、入りたいと思うだけで入れますので簡単です）

小さな指輪

（あなたが望まれました2つの道具のうちの一つになります。）

神界にのみ存在する鉱石によりできた、非常に魔力伝導率の高い初心者から玄人までご用達な魔法行使用の媒体になり、長年使ったただけますよう成長に合わせて指輪の方が自動的に指のサイズに合うようになっています）

携帯食料

（いきなり新生活を始めると言われても、なかなか生活基盤の確保は難しいと思いますので1月分の食料を入れさせていただきますました）

赤白の服

（ぶつちゃけ巫 服です。狐っ子はこれじゃ！と神様の趣味丸出しの一品になります。見た目こそ普通の 女服ですがそこは神様印、汚れない、破れない、大きさの調整が可能な上、耐魔・耐物まで備えた万能服です。但し、古くから続く下着を着けてはいけない巫 服の伝統により下着を着けることができない呪いがか

かっています」

以上で新生活応援セットの説明を終わります。

続きましては、貰った能力説明になります（こちらにも転生者ごとに違います）。

肉体年齢操作（不老）

（無意識下では基本6歳に設定されています。最大16歳まで可能です。契約により基本年齢を低くしています。年齢を上げて維持し続けるには気を消費し続け、寝るときは解除されて元に戻りますので注意してください）

「おじいさんとのけいやくでふつうはふたつぶんひつようなふるうのちからを、きほんねんれいをおとして、ねんれいをあげるにはきをしようひするようにしてせいげんをしたのでした」

限界突破

（様々な人間の限界を突破できるようになっています。契約により最初は普通の子供以下の能力しかありません）

「このけいやくはもうひとつのうりよくをもらうためです」

魔導具

（お望みになられたのはエヴァンジェリン所有の別荘と、魔法発動用の指輪でしたが、神様のおもちゃ箱の中に似たようなものがあったのでそちらを入れさせてもらいました）

「かみさまのおもちゃですか、まだせつめいしょしかよんでいませんがおもちゃのじげんがちがいすぎる気がします」

解析眼（魔眼）

（様々な解析が可能な眼です。植物の毒を調べたり、罠などの仕掛けを見破ることが可能です。さらに副次効果で普通は見ることが出来ないものも見ることが出来ます）

「これはいきっていくためにはみしらぬとちなどをぼうけんしたりすることもあるだろうとおもい、きけんかいひのよぼうのつもりでしたがふくじこうかもべんりそうであつきーです」

才能

（全ての才能を有しています。最初は素人以下からはじまります。成長速度が才能の無い人と変わりません。）

「これにはくろうしました、いろいろなことができるようになります。たかったのさいのうをしぼらずに、やることぜんぶにさいのうがあるようにしてもらいたかったのですがむりだといわれたので、けいやくをしました。がそれだけだとなりなくて、わたしのいまのすがたと、もしげんさくかいしまえにしんだらすきなようにしていいとまで、けいやくをさせられてしまいました（しゃくだったのでへいこうせかいりょこうのけんりをつけてもらいましたけど）」

以上で最後になります、それでは転生者の皆さん新しい人生をお楽しみください」

「ふう、かなりながかったです。……いろいろとためしたいこともできましたけど、そのまえにいつまでもはだかのままでいるのはだれもみていないとはいえ、はずかしくなってきました」

箱の中から、服を取り出して両手で広げてみます。

「あのおじいさんのしゅみはいまさらですが、かなりまにあつくです」

呪いつきの服らしいですけど、そもそも下着が入っていない時点で呪い関係無しですね。

「さっそくきてみるです。……………そういえば巫 服ってどうやってきるのでしょうか？」

おじいさん、着方の難しい服を入れるのでしたら、着方の説明書も入れておいて欲しかったです……。

2、狐っ子には巫 服がデフォルトですね？（後書き）

何かここで書いておかないといけないことがあったはずなのですが忘れてしまいました。

思い出したら、どこかで書いておきます。

3、経験がなければもし力があっても生きていけないと思います

「てんせいしたばかりなのにさっそくいのちのぴんちです」

お爺さんからの貰った巫服をしつくはつくしながら、派手に動く
と簡単にずり落ちてしまっうほど不恰好ですがなんとか着られたと思
ったらいつの間にか、

「「「グルルルルル……」」」

狼さんの群れに囲まれていました。

どうやらさっきまで静かだったのは、彼らの縄張りだったからです
ね。

「とてもおおきいです……」

ちょっと危険？な発言ですね自重したほうがいいでしょうか？

「やっぱりねぎまはふぁんたじーのせかいですか、じっさいにその
せかいにきてみればもとのせかいとまほうかんけいいがいは、
おなじだとおもっていましたが、よつんばいなのにせただけがわた
しのばいじょうおおきいおおかみさんとかふつつはいません」

このサイズの狼さんが普通にいるなら他の生き物も同じぐらい大き
いのでしょうか？

「いつまでも、げんじつとうひしていてもしかたがないです、いま
のわたしだとかでないのだからいしゅうへいきをつかわせてもらうの

です」

わたしは、先ほど手に入れたばかりのガラス球Ⅱ魔法球を手を持ち、

「はいりたいです」

言葉に出しながら、中に入れるよう念じると足元から魔法陣が現れて……あれ？出ないです？

「どうしてですか！ これではいれるってかいてたじゃないですか！」

「「「グルルルルル！」「」」

少しずつ近づいてくる狼達。

「こっこないてください！ わたしなんてたべても……おいしいかもしれません」

今のわたしはぷにぷにの6歳児ボディです、とっても柔らかくておいしいでしょう。

「ガウ！」

「きゃっ！」

狼さん達のうちの1匹が襲い掛かってきので咄嗟に横に飛んで避けたのですが、交わしきれずに狼さんの爪がわたしの右腕を掠っていきましました。

……わたしってついさっきまで男だったのに女の子らしい声が出せるようになってるんですね、微妙に恥ずかしいです。

「ううう……いたいです」

右腕から血が出てきました、服も破けてますし……浅かったのか血は余り出ていないですけどとっても痛いです。

（この服って対物使用で破れたりしないはずじゃなかったんですか！？）

「……グルルルルルル！」「」

どうやらさっきのやり取りでわたしは大した脅威では無いと分かっ
てしまったみたいです。

もうじき狼さん達は全員で襲いかかってくると思います。

その時は、先ほどのように避けることはわたしには出来そうにない
です。

「みじかいだいにのじんせいでした、このままわたしはしんどおじ
いさんたちのペ とけていでしょうか」

なんだか既に諦めムードになってきていますねわたし、年齢低下と
女の子になった影響でしょうか。

『遺伝子情報の解析が完了しました。あなたをマスターと認識し起
動します。』

「えっ?!」

突然、右手に痛いのを耐えながら辛うじて握っていた『血のついた魔法球』から声が聞こえ、

次の瞬間、足元から現れた魔法陣の光が私を包んでいきました。

〈ちょっとだけ三人称視点〉

少女を包んでいた光が収まったそこには、1つの『血のついた魔法球』が落ちているだけ。

獲物が急に消えて困惑している狼達はなにを思ったのか魔法球を口に銜えて行ってしまいました。

消えた少女は、まさか狼達に魔法球を銜えられて運ばれているとは考えもしないでしょう。

そして、少女も狼達もなくなったその場には、少女が漁っていた『箱』と、少女もその中に物を入れた神様達も気づくことが無かった少女が怪我をした時に飛び散ったのか少女の『血がついた種』が一つ、箱の中の隅っこに残されていました。

この『種』がどんな影響をこのねぎ魔の世界に与えるのか、それが分かるのは……。

3、経験がなければもし力があっても生きていけないと思います（後書き）

主人公のネギ魔での初戦闘でした。

主人公は将来的にチートになれるだけの力を持っていますが、今は経験と鍛錬が無いので野生の狼達（ファンタジー世界ですからこれぐらい大きいのがいてもおかしくない？）にさえあっさり追い込まれます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4994m/>

世界と狐っ子

2010年10月10日21時47分発行